

学生アイデアコンテスト2018 出場者に聞く

3人の力合わせ「奨励賞」受賞

東京経済大学4年 倉本 秀人くん
森 健太くん
関西大学4年 山西 一樹くん



(左から) 森くん、倉本くん、山西くん

「アイデアコンテスト」に参加したきっかけは、倉本君のチームはもともと、指導教官だったと、9月の前半ぐらいに柳瀬先生から参加してみたいかというお話があった。3人で参加しようということになった。——参加を決めてからの準備に

——アイデアを出し合う中で、山西君が提案した風評被害の保険にしようというところになった。ちょうど、北海道の震災や関西国際空港の台風による被災があったばかりだったので、タイムリーなテーマだった。

——自分たちのプレゼンを振り返ると、森君が英語のスピーチが、練習不足や緊張感からか、実力を100%は発揮できなかったと思う。倉本君、資料の作成に時

間を取られて、プレゼンに時間を割けなかったのが反省点である。そのうち、3人で力を合わせた「奨励賞」を受賞できたのは良かった。

——今回の韓国訪問で学んだ点は、山西君は保険会社への就職が内定しているが、参加した韓国の学生も保険会社に就職する人が多い人が多かった。意識が非常に高く、皆すごく勉強しているのが分かった。海外にも優秀な人が多くいることが分かった。

——次にコンテストに参加する学生にアドバイスがあれば、森君は現在、グローバル化が進んで、外資系企業だけでなく日本企業も海外で取引するのが当たり前になっている。その際、共通言語の英語を使ってプレゼンテーションする機会が増えると思うが、日本では英語でプレゼンする機会ほとんどない。そうした中、韓国人や中国人を相手に英語のプレゼンテーションで競い合う経験ができるというイベントは貴重だと思ふ。

(注) RIS (Risk and Insurance Seminar) 全国学生保険学ゼミナール。全国の大学における、リスクマネジメント・保険、金融・ファイナンス関連のゼミナールを中心とした交流を行う組織。各地域(関東・関西・九州)で春と秋に行う地区報告会と年末の全国大会の開催、年1回の機関紙(論文集)の発行が主な活動。

——コンテストに参加したきっかけは、倉本君のチームはもともと、指導教官だったと、9月の前半ぐらいに柳瀬先生から参加してみたいかというお話があった。3人で参加しようということになった。——参加を決めてからの準備に

——アイデアを出し合う中で、山西君が提案した風評被害の保険にしようというところになった。ちょうど、北海道の震災や関西国際空港の台風による被災があったばかりだったので、タイムリーなテーマだった。

——自分たちのプレゼンを振り返ると、森君が英語のスピーチが、練習不足や緊張感からか、実力を100%は発揮できなかったと思う。倉本君、資料の作成に時

間を取られて、プレゼンに時間を割けなかったのが反省点である。そのうち、3人で力を合わせた「奨励賞」を受賞できたのは良かった。

——今回の韓国訪問で学んだ点は、山西君は保険会社への就職が内定しているが、参加した韓国の学生も保険会社に就職する人が多い人が多かった。意識が非常に高く、皆すごく勉強しているのが分かった。海外にも優秀な人が多くいることが分かった。

——次にコンテストに参加する学生にアドバイスがあれば、森君は現在、グローバル化が進んで、外資系企業だけでなく日本企業も海外で取引するのが当たり前になっている。その際、共通言語の英語を使ってプレゼンテーションする機会が増えると思うが、日本では英語でプレゼンする機会ほとんどない。そうした中、韓国人や中国人を相手に英語のプレゼンテーションで競い合う経験ができるというイベントは貴重だと思ふ。

(注) RIS (Risk and Insurance Seminar) 全国学生保険学ゼミナール。全国の大学における、リスクマネジメント・保険、金融・ファイナンス関連のゼミナールを中心とした交流を行う組織。各地域(関東・関西・九州)で春と秋に行う地区報告会と年末の全国大会の開催、年1回の機関紙(論文集)の発行が主な活動。

意識の高さを感じた韓国の学生

韓国保険新聞・保険毎日新聞・中国保険報

日韓11チームがユニーク保険で競い合う

韓国・ソウルで「学生アイデアコンテスト2018」開催

韓国保険新聞、保険毎日新聞、中国保険報の3社は11月9日、韓国・ソウルの生命保険教育文化センターで「学生アイデアコンテスト2018」本選大会を開催した。保険産業を発展させるためのユニークな保険商品をテーマに、日中韓3国の大学生個人またはチームがアイデアを競い合うイベントで、今年で2回目。予選を勝ち抜いた韓国10チームと日本1チームが公開プレゼンテーションを行った。

後、前半に6チーム、休憩を含んだ後半に5チームが15分の制限時間で発表した。各プレゼン後には、審査員との質疑応答も行った。



真剣な雰囲気の中での会場



優勝したチーム「宝探し」

イベントの冒頭、保険毎日新聞の森川正晴取締役編集部長があいさつし、「保険制度を学ぶ韓国、中国、日本の大学生が一堂に会し、保険事業についてのアイデアを発表し合うイベントの一翼を担うことができ、柳瀬典由教授が登壇し、本日のコンテストでどのようなアイデアが出てくるのか、メディアとしての概要を紹介したい」と述べた。また、全審査員が紹介された

た、日本チームの引率教員として参加した東京理科大学経営学部経営学科の柳瀬典由教授が登壇し、日本でのリスクマネジメント・保険に関する大学教育の取り組みについての概要を紹介した。

などを補償するパラメトリック保険について発表。はつきりとした英語によるスピーチで、近年に日本で発生する自然災害

失、国内損保業界が提供する地震に対するカバー、新たに考案した保険商品の概要や提供する効果などを説明

した。発表後には、審査員から商品アイデアのユニークな点などについて質問を受けた。

完全な提案ではなく、学生ならではの新しい発想だが、今回の優秀なアイデアを保険会社が実際に商品化することを期待したい」と述べた。また、ソル・イン・ベー金融監督院副院長補は、「貴重なアイデアを出していた

を食べても本当においしかったのは印象的だった。——今回の韓国訪問で学んだ点は、山西君は保険会社への就職が内定しているが、参加した韓国の学生も保険会社に就職する人が多い人が多かった。意識が非常に高く、皆すごく勉強しているのが分かった。海外にも優秀な人が多くいることが分かった。

最後に参加者全員で記念撮影した後、会場を移して晩餐会を実施。学生たちがお互いの健闘をたたえながら、自分たちのプレゼンについて意見交換する姿がこちらで見られた。

大賞は少額短期保険を参考にした「ナノ保険」

「ナノ保険」は、少額短期保険を参考にした。大賞は、少額短期保険を参考に「ナノ保険」のプレゼンテーションを行った韓国の学生4人組のチーム「宝探し」が受賞。優秀賞にIoTハッキング損害保険について発表したチーム「I NU」と、定額サービスについての保険アイデアを披露したチーム「ピンテクロス」、奨励賞に中小企業のためのサイバー保険について発表したチーム「SCAN」と日本の「THREERA ROWS」が選ばれた。賞金は、大賞が賞金300万ウォン(1ウォン約0.1円で約30万円)、優秀賞が200万ウォン(同約20万円)、奨励賞が100万ウォン(同約10万円)だった。

優勝したチーム「宝探し」の学生は、「4人が各パートに分かれて発表したけど、それぞれが100%以上に力を出したのが大賞に選ばれたのだと思う」と感想を述べた。